

春夏秋冬「秋」(矢田部良吉)

秋は 尾花に おみなえし

桔梗の 花も 開くべし

晴れて 雲なき 青空に

照らす 月影 明かに

されど 何処も 同じ こと

寂しく 見ゆる 家の外

作者 明治時代の日本の植物学者、詩人。理学博士。東京大学初代植物学教授となる。東京博物館長、東京盲啞学校長等を歴任。「新体詩抄」を著わし、新体詩を提唱した。

解説 秋を詠った詩。

語釈 ※尾花Ⅱススキの花穂。はなすすき。※おみなえしⅡオミナエシ属の多年生植物。秋の七草の一つとして、日本では古くから親しまれている。※桔梗Ⅱキキョウ科の多年生草本植物。山野の日当たりの良い所に育つ。※月影Ⅱ月の光。

通釈 秋は尾花にオミナエシが美しい。また桔梗の花も開こうとしている。天は晴れて雲一つ無い青空だ。夜、照らす月の光は輝いているが、でも、何処も同じ事は、家の中に比べ、外は秋の寂しさに包まれている。